

ときには、辛口

20

◆素朴な疑問

若い頃は文章が書けなかった

若い頃は文章が書けなかった。とりわけ論文のたぐいを書くのは苦手だった。しかし論文を書かなければ学部も卒業できないし、大学院の修了証ももらえない。さいわい友達がたくさんいたので、ずいぶん手伝ってもらって分量も最小限のものを仕上げてなんとか切りぬけた。

若い頃の私はどうしてそれほど書けなかったのか。たぶん実力がなかったのだし、才能もなかったからだろうと、自分では思ってきた。



松本道介
Matsumoto Michisuke

だが最近ものの見方が変わってきたせいか、先生がわるかったと思うようになった。先生のせいにするなんてけしからんと先生たちは怒られそうだ。とは言え、若いときに私にならった先生方はすでに鬼籍に入っておられるし、私自身も先生と呼ばれる商売を四十年やってきたので、自省の念もこめて言うのだが、大学の先生というのは高校を出たばかりの若者に難しいことを教えすぎる。

教えるとともに、あの本も読め、この本も読め、読んだらレポートを書けというけれども、あの本もこの本も難しすぎる。その難しい本を難無くわかってしまう学生、あるいは

わかったような顔のできる学生を秀才と呼ぶのだろうか、私は頭が無器用だったせいかわからないことが多い上に、わからないのにかかったような顔もできなかったから、レポートも論文もうまく書けない学生であり続けた。そんな私が多少とも文章が書けるようになったのは五十歳をこえてからである。なぜ文章が書けるようになったかといえば、頭のわるさに居直りはじめたからだろうと思う。わからないものをわからないと言うのは当然だと考えるようになり、ごく素朴に、なぜですか、なぜそうなるんですかといった質問をまずは自分に向けて出せるようになった。

したがって五十歳をこえてから書いたものは基本的に問いかけの文章ばかりである。初めて著書というものを出したのは六十歳のときで、現在にいたるまで五冊の本を出したが、一番最近に出した本の名前が「素朴なる疑問」であるのは決して偶然ではなかったと思う。

例えば、2つの疑問

私にとつて素朴なる疑問は年とともにふえていく。素朴なる疑問があまりふえると、質問本来の「素朴さ」を失なうのではないかと

いう恐れもあるのだが、その疑問とは例えばこんなものである。

小学生に始まる学力低下はなぜとまらないのか。対処する方法はいろいろ講じられているが、一向にききめがないのはなぜか。それはなぜ学力は低下するののかという問いかけがないせいだろう。

算数についていえば、あきらかに電卓のせいである。現代の大人でデンタクの世話にならない人なんていないのではないか。理系の先生に聞いた話では、論文のなかに計算を入れる場合は必ずデンタクを使うよう指導しているという。手でやると間違う可能性があるからだそうだ。

それにしても店のレジが備えているバーコードはなんて便利にできているのだろう。レジにいるパートの小母さんなんてロボットそのものの仕事しかしてないんだし、間もなく全員クビにならないかと心配になる。

小母さんたちをクビにしないためにはバーコードの使用を禁止するしかない。昔のように皆が皆、手で計算する習慣に戻すしかないだろうが、そんなことをすればバーコードやデンタクを製造する会社は社の存続にかかわ

るから当然反対するだろう。

今の世の中にはどうしてこんなにウツの人が多いのか、というのが第二の疑問だが、実のところウツというのがどんなものかはよく知らない。

だが、会社でも大学でもウツのため出社しない人、学校へ来ない人はずいぶん多いというではないか。医者やカウンセラーは数多くいるし薬もあるというのにウツが一向に減らないのはなぜだろう。これも学力低下と同様なぜウツになるのかという基本的な問いに専門家も世間一般も目を向けていないせいだと思われる。

では、なぜウツになるのか。答は簡単で、人と人との間で、と、ともに、生きる動物である人間が、一人一人孤独に生きているからである。子供に個室を与えてはいけないという著書を書かれた松田妙子さんのことは「時には、辛口」第15回に書いたが、松田さんこそは「なぜウツになるか」という素朴な問いを真面目に考えた稀有な人だったと思う。

文明の利器という麻薬

むろん人を一人にするのは個室だけではな

い。クルマとて車椅子つきの個室なのだ。個室にいる人間は孤独である。そして人間は本来孤独をきらう生きものであり、昔は孤独地獄などという言葉もあった。現在でもこの言葉は真実だと私は思っているが、いわゆる文明の利器のほとんどはその地獄の地獄的な性格をごまかす利器でもある。

テレビはもとよりテレビゲームにウォークマン、ケータイにパソコン……すべては孤独地獄をごまかし、地獄を天国とさえ思わせてくれる麻薬らしい。そしてこの地獄を天国だと思ひ違ひすることをウツ病というのではなからうか。

だとするとお医者さんやカウンセラーたちは今すぐにもクルマやテレビをはじめ文明の利器いっさいの禁止を叫ばなければならない筈だが、そんなことは出来る筈もない。

テレビにクルマにバーコードからITのすべてが百年前には夢だった。こうした数々の利器が実現されれば、人類は限りなく幸福になれる筈だったが、実現されてみると人類は限りなく退化し、限りなく不幸になっていくらしいとはなんたる皮肉だろう。

(中央大学名誉教授)